

# 大倉山フラット

## 防災委員会 活動等について

2023年12月22日防災塾

建物概要、防災委員会(よこはま防災向上マ/認定)  
活動内容の紹介、今後の課題等



自己紹介 伊藤郁夫（いとういくお）

1956年7月大阪市東住吉区生まれ

1979年4月大学卒業後 ヤマトプロテック株式会社入社

- 防災システムメーカーとして  
営業部・企画室・プラント部、品質保証部、  
経営管理本部等を勤務  
現在、社長室顧問  
日中石油タンク火災実験会参画、  
阪神淡路大震災、東北大震災時に自社対策  
本部等を経験。
- 高輪消防署消防団（5年間勤務活動）
- 横浜市港北区在住 家族5名（子供3人）  
マンション副理事長、防災委員会委員長
- （一社）日本ボーイスカウト神奈川連盟理事



# 1. 建物の概要等

名称 大倉山フラット 横浜市港北区大豆戸町455番地

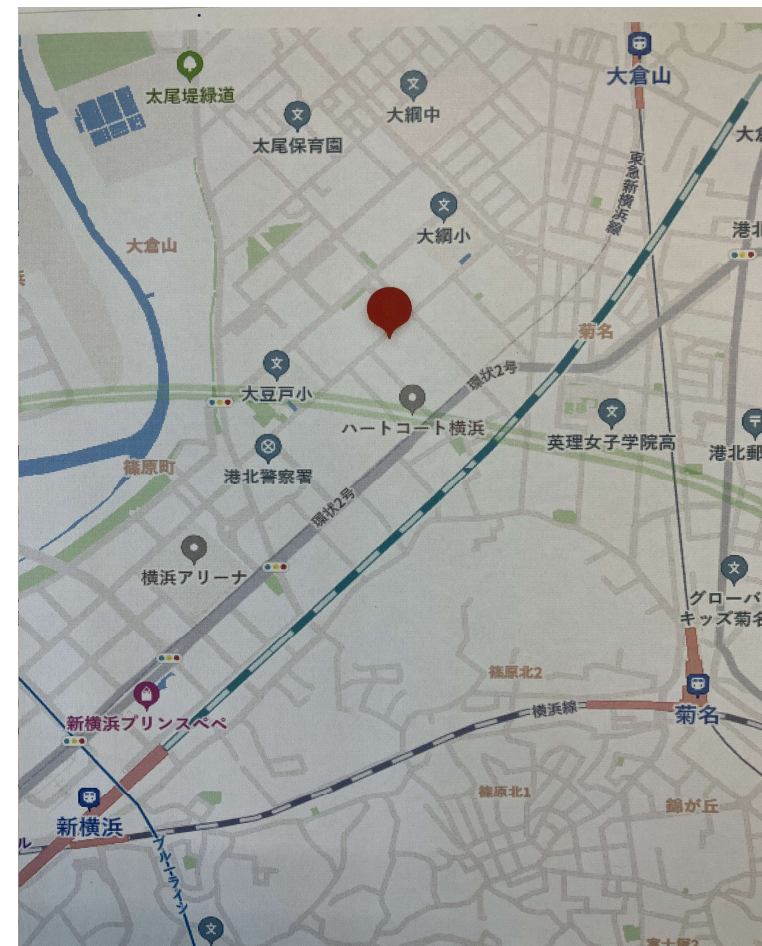
竣工年月 1981年(昭和56年)3月末

新耐震建築基準施工前 竣工

7階建 全47戸 鹿島建設竣工

東急東横線 大倉山駅から徒歩10分

JR新横浜駅・菊名駅から徒歩15分



# ( 1 ) 建物の耐震性について

- ① マンション等は建築基準法に定める耐震基準に従って建築されますが、昭和56年、耐震基準について大きな改正がありました。
  - ② 昭和56年3月末に竣工された大倉山フラットは現在の耐震基準と比較すると耐震性能が低い可能性があります。
  - ③ 今後、耐震本診断により補強工事等の検討は理事会・総会を通じて検討。
  - ④ 防災訓練時には、在宅避難が出来ない状況を想定した事をマンション住民に説明した訓練を実施しています。
- (横浜市では、耐震化についての耐震診断、耐震改修工事など補助金制度があり、併せて検討しています。)



## (2) 防災委員会 2017年12月設立

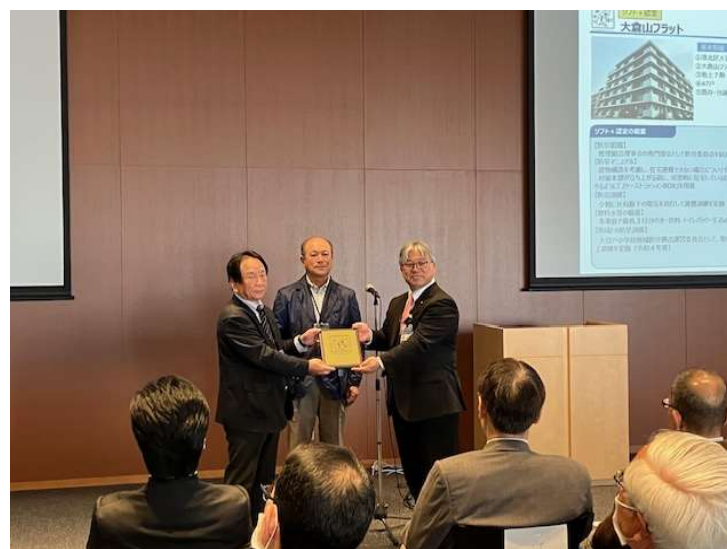
- ①住民の生活環境変化等に合わせ、事前対策及び発災時の活動マニュアルのUP/DATEを続け、自助・共助の防災活動を進めています。
- ②大倉山フラット防災マニュアルは、初版2021年9月26日に作成。
- ③しかし、毎回の防災訓練参加者が約30%と少なく、何か良い成果となる目標等があればと探していました。
- ④「[よこはま防災力向上認定制度](#)」がある事を知り理事会承認後の2022年12月に申請を行いました。



# (3) よこはま防災力向上マンション

## 2023年5月「ソフト+認定」を取得

- 防災活動などのソフト対策を実施しているマンションを「ソフト認定」
- 建物全体の対策を実施しているマンションを「ハード認定」としてそれぞれ認定。
- 地域との連携が図られている場合は「ソフト+(プラス)認定」「ハード+(プラス)認定」



## (4)防災委員会の活動について

- ①防災委員会は、年10回くらい開催しています。(現在委員は7名)  
理事会の理事は1年間の任期  
防災委員は任期は自主性です
- ②年に1～2回の防災訓練を計画し実施。
- ③現在の訓練は、防災マニュアルに沿った形で実施。
- ④2年に1回は、  
港北消防署から指導に来てもらっています。





# 防災訓練の報告

大倉山フラット 全住戸様

2022年12月12日 管理組合理事会 防災委員会

## 大倉山フラット「夕刻の防災訓練」の実施報告

12月10日(土)17時~防災訓練に多くの参加ありがとうございました。  
24住戸30名参加でした、安否確認においては皆さんの協力で全住戸の確認が出来ました。  
現在、「防災マニュアル」改定作業と並行し「よこはま防災力向上マンション本認定」申請作業中です。  
引き続き防災力向上にご協力をお願いします。(文責:伊藤)



↑ 共用廊下等の電気点灯風景



↑ 共用廊下等の電気消灯(暗

間)

共用廊下等の電気を一時的に消灯(暗間の体験)致しました。あらためて明かりの大切さを学び、日頃から懐中電灯の電池確認をお願いします。非常用品備蓄室の施錠解除し「ファーストミッション箱」を開け、要点のみ記載の役割分担と安全確認の注意点を読んで頂きました。続いて、住戸別(各階ごと)に安否状況の訓練。玄関チャイム鳴らし在宅・外出等の確認を行い一覧表に記載致しました。



最後に在宅避難時のトイレ・下水配管に異常がないかの訓練を行いました。上階(7階)の居住者宅から排水し6階住居内等で水漏れがないか確認し

理事・防災委員様

2023年9月6日  
管理組合理事会と防災委員会

## 大倉山フラット「防災訓練等」の実施報告

- 1、目的 ・よこはま防災力向上マンション認定取得後、初めての防災訓練を実施し、在宅避難を想定。  
・事前アンケートを実施し「備蓄水・備蓄食料」実態報告。  
・残暑祭りを併行し、住民同士のコミュニケーションを図る。

- 2、日時 2023年9月3日(日)16時~18時  
持物「防災マニュアル(改定2023年2月28日版)」持参していただきました。

- 3、参加者数 18住戸、延べ23名(内:子供3名)

- 4、訓練内容

(1) 名前の受付後、訓練目的等の説明(理事長から)

(2) 地震発生(震度5強以上)、「在宅避難を行う事」を想定。

① ハンドマイクでサイレンを鳴らし、発災。1階ロビーに集合

② 非常用品備蓄室の施錠解除(山口さん)

「ファーストミッション箱」を開ける。

③ 役割分担(安否情報係:各階2名ずつ。救護係:杉山さん、伊藤)

④ 各階ごとの安否状況の訓練。玄関チャイムを鳴らし、状況確認

(不在、家事都合等)

○在宅12住戸、×不在17住戸、訓練参加18住戸、計47住戸

⑤ 救護所と避難生活、簡易トイレ試験。

試験的にバナナと水等を使用。凝固剤確認とゴミ袋の避難期間中の使用数と処理場所について意見交換を行いました。(ベランダに一時置きが良い)

⑥ 一部住戸の都市ガスメーターが交換されていたので、震災の揺れでガスが止まった際の開栓方法について説明。

⑦ 在宅避難開始時にトイレ・下水配管に異常がないかを確認。  
306号室から下階106号室のテスト排水を行いました。

- 5、「大倉山フラット残暑祭り」実施

(1) 住戸内の備蓄(水・食料品)アンケート報告 布製担架→回収27住戸からあり。(添付参照)

(2) 非常食の試食会を実施

(3) 昔ゲーム(ゴムパチンコ等)遊び。

(4) ジュース飲料(有料)

- 6、評価・反省 理事長から終了の挨拶

17時45分終了(後片付け)

- 7、参加者意見 非常ベルの鳴らし方について、非常用品室の鍵所有者の表記場所について



以上



## (5) 想定される主な被害について

- ①大規模な震災が発生した際には、各住戸で様々な被害が発生することが予想されます。
- ②どのような被害が発生するのか事前に把握し、対策を講じておくことで被害を最小限に抑えることができます。
- ③旧耐震のマンションですので、震度5強以上の地震が発生した場合、建物の損傷、倒壊の可能性があります。
- ④室内は、家具や電化製品の転倒・落下・移動やガラスの飛散。調理中の地震による火災の発生。
- ⑤電気、水道、ガスなどのライフラインの停止。
- ⑥食料、日用品などの不足
- ⑦電話、メールの通信障害等

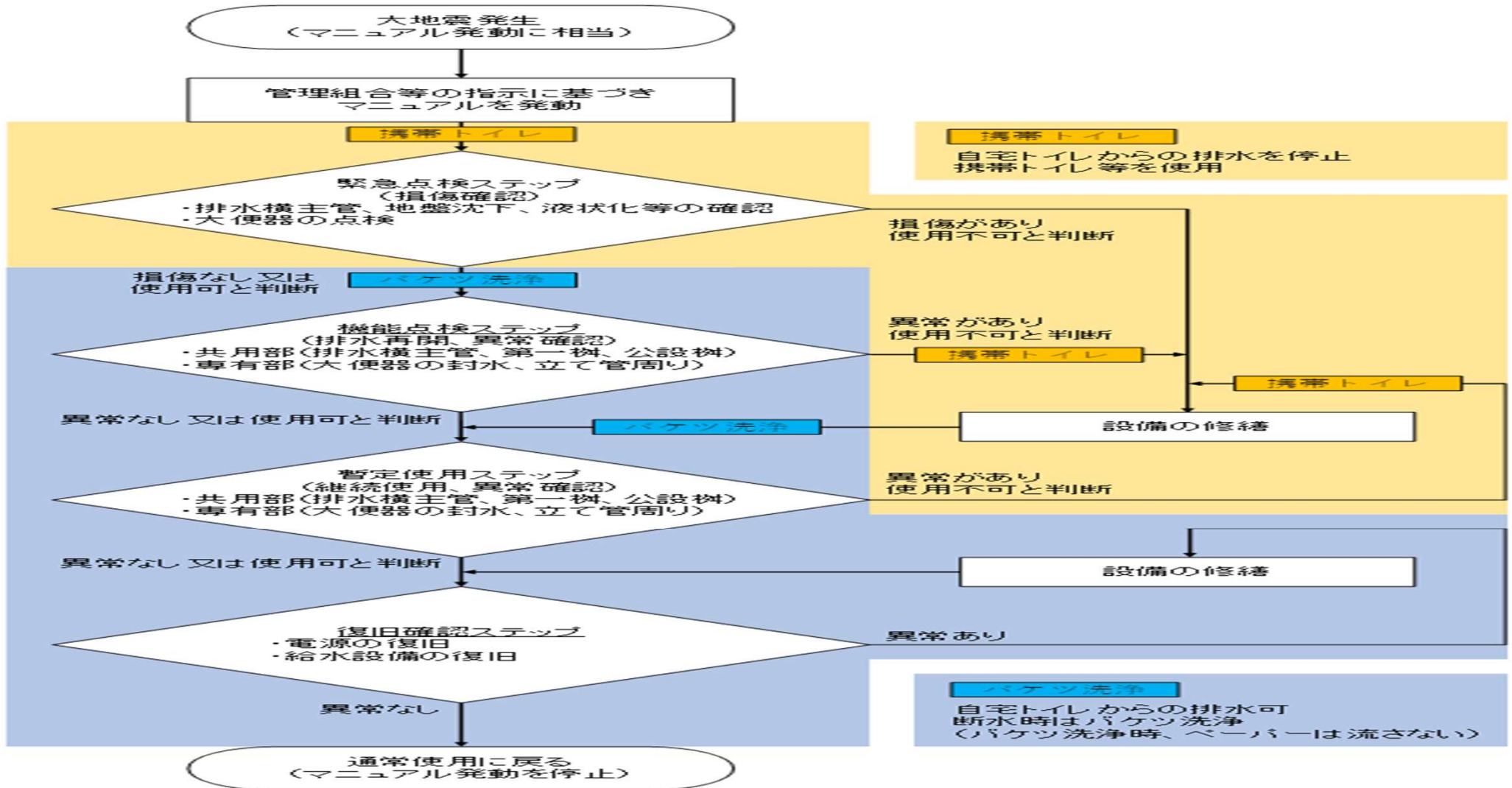
## (6) 断水時の対応について

- ①1人1日3リットルを目安に飲料水を用意。
- ②風呂の残り湯は捨てずに、生活用水として使用します。
- ③排水管等に被害があった場合はトイレが使えなくなります。
- ④水を流さずに携帯トイレを使用します。
- ⑤各住戸でトイレ使用時には、目視で大まかな裂損傷がない事を上下階の住民同士でよく確認。
- ⑥バケツ洗淨から始める。
- ⑦大倉山フラットの排水管損傷等の確認時は次ページの上下階一覧表を参照願います





# トイレ等の排水時マニュアル



# (7)食料、日用品などの不足について

**大倉山フラットでは、水と非常食の備蓄はしていません**

①大規模な震災によってライフラインが停止すると、早期の復旧が見込めず、生活に不便が生じることが予想されます。

②各家庭であらかじめ

最低3日分の水

食料

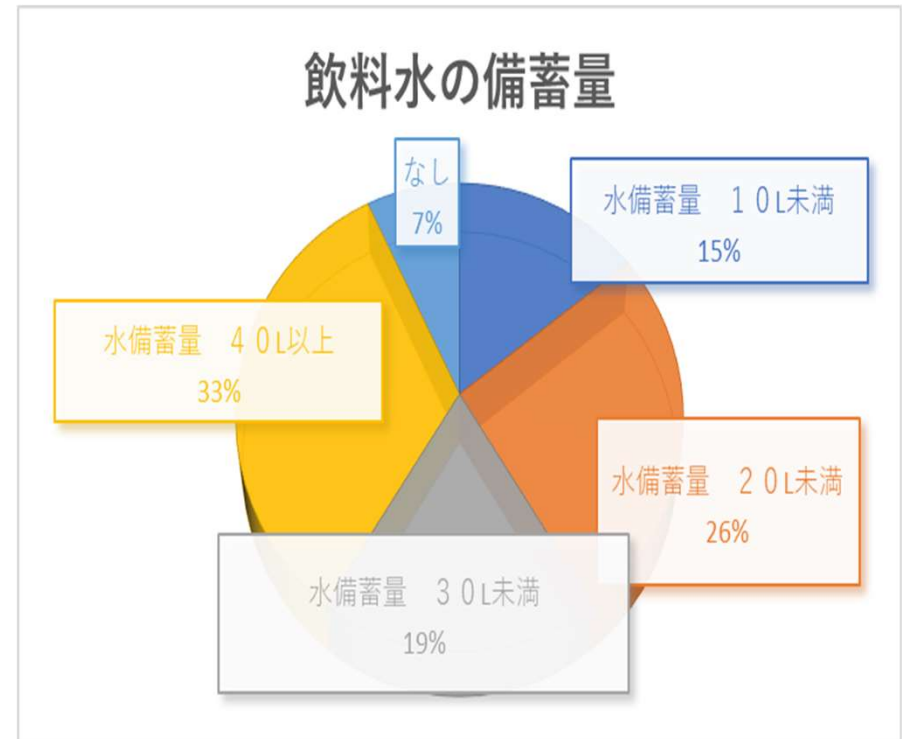
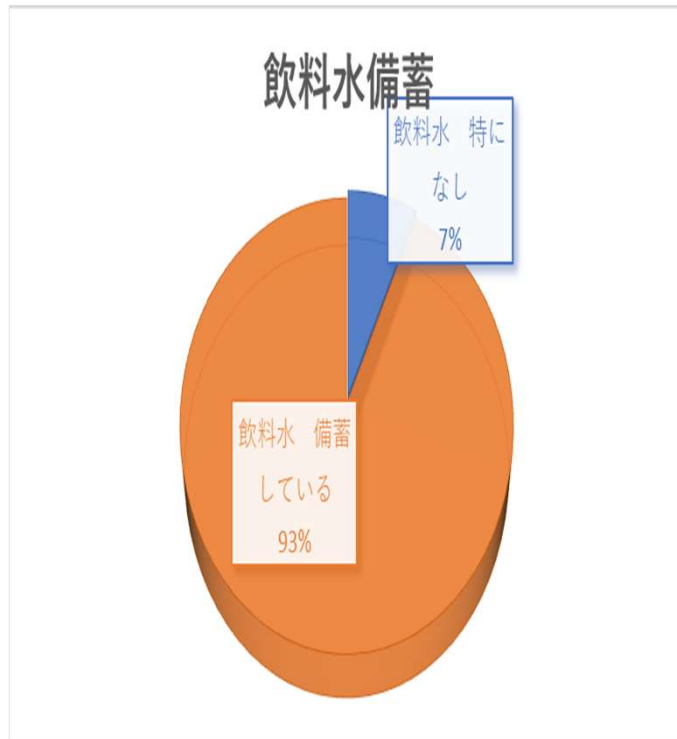
トイレパック

生活必需品等を準備。

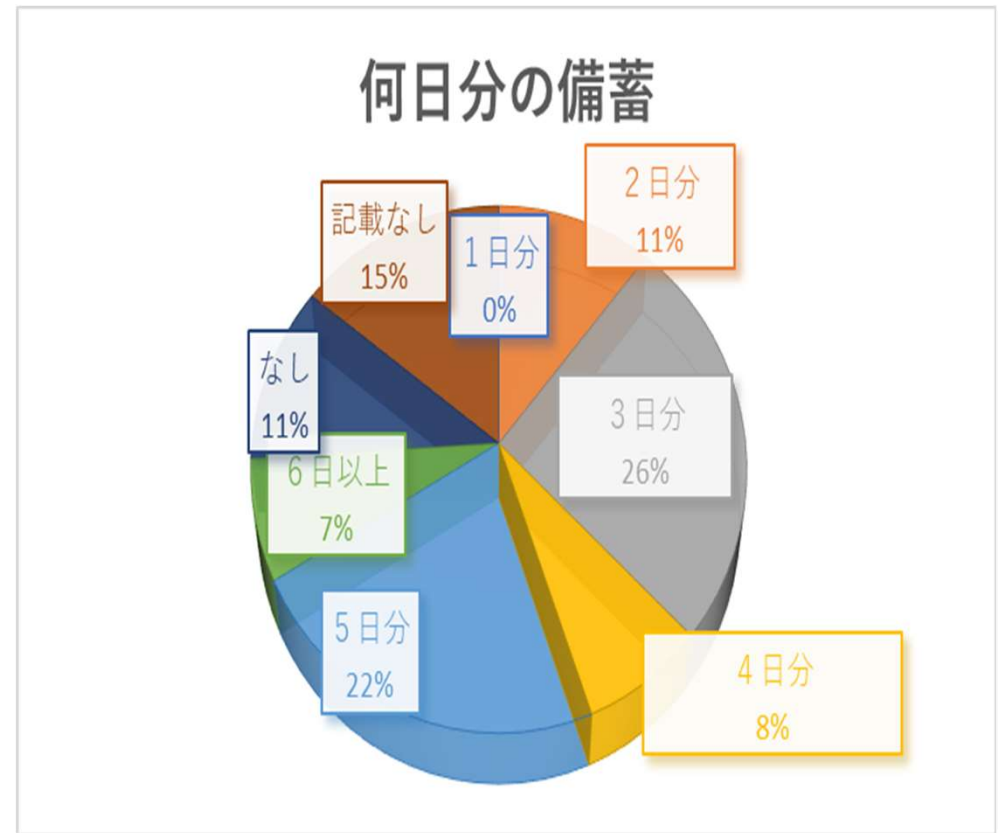
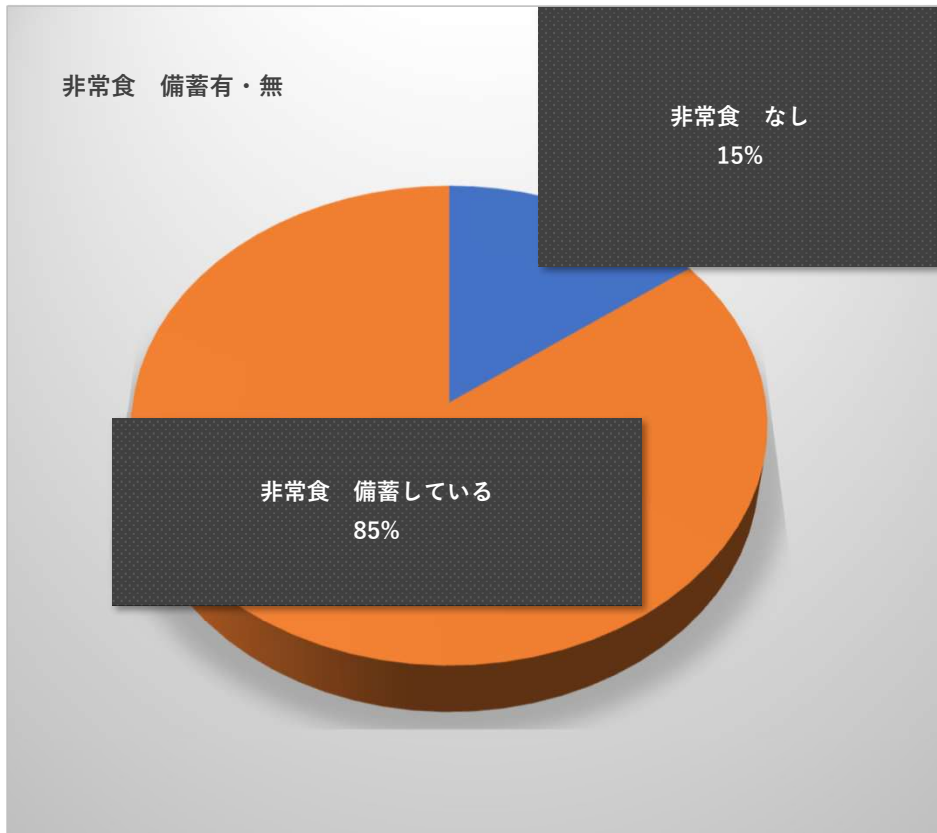
# (8) 飲料水と備蓄食料について

## アンケート実施(2023年8月)

	共住者数
1人住まい	6
2人住まい	7
3人住まい	9
4人住まい	2
記載なし	3
計	27







## (9)非常用品の備蓄倉庫について



□車椅子1台 台車1台	□軍手80人分 手袋35人分	□アルミブランケット 30枚
□簡易トイレ 座面5台、600回分	□手ぬぐい30枚、ポンチョ37人分	□担架1台、階段搬送シート1枚
□携帯トイレ30袋分トイレ紙48個	□水2L96本2024年8月迄 消毒用	□パール、ハンマー のこぎり各2
□発電機 2台 オイル1缶	□紙コップ200、食器50セット	□オノ、シャベル 各2
□電気コード 1.5m 4本	□大鍋6個、やかん1個	□簡易シューズ 45足
□電気リール 30m 2台	□医薬品 20人分 2セット	□リュックサック 24人分
□乾電池 単三 66本	□応急手当・衛生袋 40人分	□アルミ、ラップ 各10本
□多機能ラジオ 37台	□ランタ37台 ヘッドライト5個	□カイロ30袋
□メガホン 2台	□投光器2台 懐中電灯 5台	□ナプキン、ドライシャンプー各30
□ブルーシート 3.6x5.4 10枚	□カセットコンロ5台 ガス容器33	□テント2張・トイレテント2張
□USB充電器、type-c 各2セット	□石油ストーブ1台 七輪 3台	□ヘルメット37個 ギブス20枚



## 2.ファーストミッションBOXの設置



- (1)あらかじめ役割を決めていても、発災時に防災委員が在宅しているとは限りません。
- (2)災害発生時には、このBOXを開けると3つしか記載していません。  
安全確保、怪我人救出と手当、  
救護所開設
- (3)その後、対策本部の設置。
- (4)居住者の怪我対応、救護所の開設を優先します。



### 3.ピンポン作戦 防災訓練時に在宅有無を調べる

- (1)防災訓練での参加者  
向上の為に訓練時に  
在宅有無の聴取りを  
行うようにしました。
- (2)二人1組で行っていま  
す。  
「ピンポン作戦」です。
- (3)これで100%確認が  
出来ました



# (1) ピンポン作戦の結果は

- ①ホワイトボードに記載し  
参加者全員で情報共有しま  
す。
- ②在宅の有・無を確認。
- ③在宅なのに参加出来ていな  
い状況が見えます。
- ④幼児の昼寝や体調不良等



## 5. 横浜市のわいわい防災マップ (横浜市行政地図情報提供システム活用)

### 「大倉山フラット」付近の被害想定状況

- ・元禄型関東大震災と東京湾北部地震では「震度6弱」。  
南海トラフ巨大地震では「震度5強」と想定されています。
- ・洪水、浸水、内水、高潮の想定では洪水時の浸水想定区域として  
0.5m<3.0mとなっています。  
液状化についても注意が必要。

\* 1階が床上浸水となれば上階に避難し助け合いが必要です。



# (1) 横浜市防災情報Eメールの活用

## (3) 港北区防災情報アプリ

トップページ上部に気象警報や避難情報、避難場所の開設等の情報が表示されます。

※普段は表示されません。

「ハザードマップ」を開くと、開設中の避難場所を地図上で確認できます。また、近くの避難場所までのルート検索ができます。

### 【アプリのダウンロード】



iOS



Android





## (2) 負傷者の誘導・応急手当について

- ①救護所を開設するまでは、エレベーター前や住戸内などの安全な場へ負傷者を誘導。
- ②軽傷者は、備蓄物資の救急用品を使用し応急手当を行います。
- ③重傷者は、消防署に救助を依頼。消防署の到着が困難な場合には最寄りの災害拠点病院等に搬送します。

(現在の港北区の医療提供体制について)

災害拠点病院が重症者の受入に十分に対応できるよう、重症者以外の負傷者はその程度に応じて、災害拠点病院以外の医療機関や医療救護隊、市民による自助・共助等、分担して応急医療を実施。診療等が可能な医療機関及び薬局は「診療中」「開局中」の『のぼり旗』『フラッグ』を掲出。通信網途絶時は地域防災拠点にて、診療状況を掲示するなどして診療可能であることを区民に周知されます。

・最寄りの

## 6. 今後の課題について

- (1) マンション内のコミュニケーションが絶対に必要。  
9月2日防災訓練後にミニ夏祭りを開催しました。



## (2) 今後の課題について

①災害時には地域の住民防災組織(町会)や近隣の避難所、避難場所との連携が必要不可欠です。

②災害時、大豆戸小学校が避難所になります。防災委員7名11月19日参加



ご清聴ありがとうございました

